

二二五九番

秋萩あきはぎの 上うへに白露しらつゆ 置おくことに 見みつつそ偲しのふ
君きみが姿すがたを

二二六〇番

我わ妹ぎ子もは 衣ころもにあらなむ 秋風あきかぜの 寒さむきこのこ
ろ 下したに着きましを

二二六一番

泊瀬風はつせかぜ かく吹ふく夕よひは 何い時つまでか 衣片ころも敷かたし
我あがひとり寝ねむ